

# 視察調査報告書

委員会名	文教生活常任委員会
参加者	委員長 原田 範次 副委員長 荻野 秀範 委員 木全 昭子 内田 実 江村 力 井手瀬 絹子 鈴木 英樹 神谷 寿広
視察日時	平成31年1月24日(木) 10:00～11:30
視察先・概要	東京都八王子市 人口：577,513人 世帯数：256,231世帯 面積：186.38 k m <sup>2</sup> 特記事項：住みよさランキング2018(東洋経済)総合495位 (安心646位、利便444位、快適162位、富裕118位、住居736位)
視察項目	「みんなで育てよう はちおうじっ子」について
視察概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 背景・経緯               <p>平成21年1月に市立中学の生徒2名が逮捕される事件が発生した。事件を受け、教育委員会では、保護者が家庭において社会のマナーや基本的な生活習慣、学習習慣を子供に身につけさせる家庭教育を周知啓発するため、21年2月に啓発リーフレット「みんなで育てよう はちおうじっ子」を策定し、市立各小中学校に配布した。</p> </li> <li>2 内容               <p>子供を健全に育成するため、平成11年度から東京都とこころの教育革命協会が推進した事業「こころの東京革命」行動プランに掲載されていた具体的行動から抜粋して、「命の大切さを伝えよう」「早寝・早起き朝ごはん」を励行しよう」「親子の会話を大切にしよう」「きちんとあいさつをさせよう」「家庭での役割を与えよう」「よいところを見つけてほめよう」「よくない言動をきちんと叱ろう」「何でも与えずにがまんを教えよう」の8項目からなる「八王子市の家庭教育8か条」を策定した。</p> </li> <li>3 策定後の取り組み               <p>リーフレット策定以降、各小中学校に配布するほか、小中学校入学式において「お祝いのことば」の中で紹介した。また、平成28年度には市内幼稚園・保育園に配布先を拡大し、平成30年度には民生・児童委員、青少年育成指導員、青少年対策地区委員会のほか、保健福祉センターなどに配布先を拡充した。</p> </li> <li>4 効果、課題、今後の展望               <p>策定以降、毎年リーフレットを配布していることにより、「8か条」という言葉の周知は図ることができた一方、策定から10年が経過したことによる時代の変化や、価値観の多様化、保護者への周知不足等</p> </li> </ol>

	<p>の課題を抱えている。</p> <p>現在、地域全体で子供と子育て家庭を支えることをコンセプトに見直しを行っており、家庭教育関連部署や関係団体等の意見を聞きながら検討している。</p>
<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<p>・平成21年1月に発生した事件を受け、家庭教育の重要性を周知啓発するために啓発リーフレットを作成し、10年間啓発活動を行い、一定の周知は図ることができたとの説明であった。課題としては、時代の背景や価値観の多様化により現状のリーフレットではずれが生じており、現在、見直しを行っていることである。家庭教育は重要不可欠なものであると認識しており、本市においても強力に進める必要があると考える。そのためには、社会教育部門の組織強化をするとともに、組織を再考する必要があると考える。</p> <p>・文部科学省が「地域協働学校本部」をつくるようにと言ってきたことを受けて、子供の教育は、家庭を基本にして地域・学校が協働して行うとし、平成30年度、モデル地区を横川地区に決定した。推進区域では、「あいさつ運動」「横川小音頭の普及」「防災訓練」などを実施し、地域住民への健全育成の啓発などを積極的に進めるというものであった。社会のマナー・生活習慣・学習習慣を身につける家庭教育8か条をつくり、8か条も今後、子供・地域・家庭の目線で見直しをされるというものであるが、子供の居場所をつくるためには、子供が喜ぶこと、子供サイドの意見を聞くことが重要である。標語づくりに終わらないか、また、子供の声が生かされているのか疑問である。</p> <p>・八王子市では、10年前から保護者が家庭において、社会のマナーや基本的な生活習慣、学習習慣を子供に身につけさせるため「みんなで育てよう はちおうじっ子」を策定し、家庭教育の指針として周知啓発を行っている。学校行事の中で「八王子市の家庭教育8か条」を繰り返し紹介し、家庭教育の大切さをPRしてきた。対象者として、小中学校から幼稚園、保育園、民生委員や児童委員へ拡大配付をし、関係団体には一定の周知を図る成果を得ている。しかし、時代背景の変化に伴い、見直し事業に着手しており、見直しのコンセプトは「子供たちにやらせる」ことから「一緒に行動しよう」という内容にしていくことにし、地道な活動により子供の心を育てる基本である家庭教育の向上が図られている。</p> <p>・リーフレットは時がたてば風化し、3年もすれば忘れ去られることが多いが、八王子市では、家庭教育啓発リーフレット「みんなで育てよう はちおうじっ子」を、見直しをしながら10年間も継続して発行している姿勢に取り組みの本気度を感じた。家庭教育の啓発にはリーフレットの配布も一つの方策ではあるが、家庭にとってそのリーフレットが魅力あるものでなければならぬ。そのためには、家庭で一緒にできる「行動目標」を織り込むべきだと思う。</p> <p>・啓発リーフレット「みんなで育てよう はちおうじっ子」を策定して</p>

	<p>以来、配布先を拡充しながら10年が経過し、「8か条」という言葉の一定の周知は図られた状況であるものの、時代背景の変化、価値観の多様化、周知不足等に伴い、「8か条」の見直しを検討中とお聞きした。今後の展開として、リーフレットのほかに子育て家庭に対する幅広いアプローチとともに、保健師による母子訪問時の保護者への配布や町会の回覧などの活用を伺ったが、大事なことは、言葉の周知を広げながら、家庭、学校、地域と社会全体での取り組みが肝心ではないか。家庭教育の重要なポイントを示す「8か条」が実践につながることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年の事件を機に、9年間家庭内教育を推進されていた。しかし、各家庭の諸事情が異なることから、自宅の啓発活動から地域全体で「あいさつ」を通じ、子供を育て、見守る取り組みに変えようとしていた。実際には、家庭内教育の重要性を伝えつつ、地域で見守る体制づくりが重要と感じた。本市においても、自治体活動の温度差はあるが、地域で子供を育む体制を継続的に推進することが大変よい施策と考える。</li> <li>・教育基本法第10条(家庭教育)にのっとり、八王子市の家庭教育8か条を作成したもの。子供の心の問題として、大人でははかり知れないことが多々あり、いじめ、登校拒否、体罰等、子供側からの発想なくして解決はできない。子供の楽しい居場所づくりが必要である。本市においては、子供食堂、こどもの家、児童育成センター等を通じ、居場所づくり、心のケアの必要性が高い。</li> </ul>
<p>委員長の総括</p>	<p>「みんなで育てよう はちおうじっ子」を調査した。八王子市では、啓発リーフレットで10年間、「8か条」を呼びかけていた。</p> <p>本市においては、事業は3カ年で見直すことが常識化されているが、八王子市が継続的に事業を実施できた点は特筆できるものである。</p> <p>家庭は、子供たちにとって楽しい場所であることが一番である。子育てに正解がないと言われている中で、標語で終わらない活動が必要とされている。原点に立ち返り、家庭、学校、地域に楽しいことがある、そんな子育てを息長く継続していくことが必要だと感じた。</p>